

00	09	03	002	永年保存	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議長	副議長	事務局長	次長	主査	主査	担当	文書取扱主任	

第16回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日		平成20年7月3日(木曜日)		開会：10時00分		閉会：11時10分	
開催場所		第一委員会室					
出席委員		井上、山木、渡辺、酒井、本間、山口、荒木、堀、田村				事務局	中嶋事務局長
		議長、委員外議員～窪之内、関藤、大谷、三上、山腰、水口					田湯次長
欠席委員							寺嶋主査
説明員		別紙のとおり					
議件		別紙のとおり					
議 事 の 概 要	1 調査事項について						
	次の事項について、所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。						
	(1) 入札の公告について						
	2 その他						
	なし						
	3 次回委員会の日程について						
	7月14日(月) 10時						
	上記記載のとおり相違ない。市立病院建替計画等調査特別委員長 井上正雄 ㊟						

平成20年7月2日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成20年6月30日付け滝議第60号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

会計管理者兼理事	飯 沼 清 孝
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築推進室長	菊 井 弘 志
市立病院事務部事務課改築推進室主幹	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築推進室副主幹	配 野 英 夫
市立病院事務部事務課改築推進室主任主事	佐 藤 智 人
市立病院事務部事務課改築推進室主任技師	横 田 和 典

(総務部総務課総務グループ)

第16回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H20. 7. 3 (木) 10:00
第 一 委 員 会 室

○開 会

○委員長挨拶(委員動静)

1. 調査事項について

(1) 入札の公告について

2. その他

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第16回 市立病院建替計画等調査特別委員会会議録

H20. 7. 3 (木) 10:00

第一委員会室

開 会 10:00

委員動静報告

委員長

全員出席。議長出席。委員外議員～窪之内、関藤、大谷、三上、山腰、水口。北海道建設新聞、プレス空知、道新の傍聴を許可する。

1 調査事項について

委員長

(1)について説明願う。

(1)入札の公告について

東部長

30日に予定していた入札が執行できなかったことを受け、建築設備、電気についても事前に公告の中で記載してあったように、建築本体が中止になった場合は入札を中止するというに従って入札の中止公告をしたところである。今回の事態を受けて内部的にどういうところに要因があったのかの分析も含めて精査をしないといけないと考えている。事実は予定価格が実勢に合わない部分があるということだと思うが、詳細については詰めていかなくてはならないと思っている。今の実勢価格に置きかえた場合にどうなるのかといった積算をし、機能を損なわない程度で仕様等のレベルを下げるといったことでの工事費の削減についても見直しをしていきたい。それらの部分である程度の数字が出たら収支計画について再度見直し、行けると判断した場合は補正予算を組んで臨時会を開催していただき提案したいと考えている。これらの部分については進行状況を見ながら進めていきたいし、積算の部分、収支計画等については決まったら特別委員会を開催していただき、内容等について報告させていただきたい。

委員長

部長から話があったとおりだが、我々が予想していなかった形でこのような事態になったわけで、何が原因なのかを精査し、報告に基づいた次の対応をとることでそう遠くない時期に次の方針を明らかにしなくてはならない。きのう正副委員長と病院側とで打ち合わせをし、今月中に特別委員会を3回開催したいと考えている。早急に原因等を明らかにし、市民の念願である病院建てかえを進めていかなくてはならないので、今の部長の報告について質問があれば伺いたい。

渡 辺

① 砂川の情勢は早くから市民を初め、道民も承知で、3つのJVともに入札辞退というのはやっぱりかということで、そういう水面下の打ち合わせは本当になかったのかということを市民が言っているので、そのことについてお答えいただきたい。

② 現時点でこの改築については、結局は基本設計で予定した価格が破棄されたのではないかとことを申し上げたい。再度積算して工事費削減ということはあるが、原点に戻らざるを得ないと思う。あとは議会のほうで補正を組んでというより、原点に戻ってそういう情勢を説明して市民の了解をとることについてはいかがか。

③ 隣の砂川市の状況を見て規模の縮小等もとのことだったが、結論的にこういう情勢であれば改築そのものの延期も検討すべきでないかと思うがいかがか。

東部長

① 当方で知る由もなく、そういうことは当然ないものと思っている。それぞれの業界できちんと紳士的に、あるいは競争性の確保は当然行われるべきで、こういうことを変に行うことは疑惑を招くので当然してないと思っている。

委員 長
本 間

②③ 病院を建てかえるという必要性の部分は変わらないと思っている。市民の命と健康を守っていくために、市立病院の必要性が続くという点は全く変わらないと思っている。今の建物のままで本当に続けていけるのかというと、相当老朽化していることで漏水などいろんなことが起きている状況である。収支計画について、もう一度新たにどのような状況にあるのかということ踏まえて説明し、その中で判断していきたいと思っている。基本的には今後の物価の情勢がどう変わっていくかわからないときに、これを延ばすことによる益はほとんどなく、逆に不利益のほうが多くなることも考えており、最終的にどういう方向に行くべきかは議会の判断もいただかなくてはならないが、我々としてはなるべく早急に判断を下していきたいと思っている。市民説明の形については、どういう形で行うべきかも含めて対応を考えていきたい。

他に質疑はあるか。

東 部 長

① 砂川のことがあり、その以前からもいろんなところを調査していくと結構厳しいのではないかという感覚を我々は持っていたつもりだが、そういった中で社会情勢との認識のずれが表現されたのではないかと思う。その点についてどのように思われているか伺う。

② 渡辺委員が延期ということで賛成の意を示されたことで大変よかったと思う。この時点で例えば延期、改築をやめることも選択肢としてはあるかもしれないが、すべてのことを網羅して考える必要性はそんなにないのではないか。この短い期間に何を指して精査していくのか。再度入札を行い、また不調に終わることは許されないという認識が必要と思うが考えを伺う。

① 結果論なので指摘は甘んじて受けるしかない。当初基本構想からやっていたときに民間企業並みの低コストの病院を目指すという話をしてきたが、いろいろな社会情勢の中で物価の急激な高騰も出てきた。いろんなことについて指摘の部分があつたのだらうと思う。当方にいろいろと問題があつたと思わざるを得ない。

② 再度不落の場合はもうほとんど立ち直れなくなってしまうので、当然許されないと考えており、そういう社会情勢の中で現在の時点で本当の適正価格についてもしっかりと確認をしながら、必要なものは予算計上し、あわせて価格を抑えるために仕様の中で機能を損なわない程度でレベルを落として価格を下げるのができないか検討を始めている。いずれにしてもいろいろな社会情勢が世界的に変わっていく中では、早急に結論を出していかないと延ばしていくと金利の問題などいろんな部分で決していいことはないと思っているので、早急に再度きちんと落札されるような形で予算化まで持っていきたい。ただ予算化の場合には収支見通しも当然あるので、もう一度出してこれらについての考え方で行けるかどうかを判断して提案しながら進めていきたい。

本 間

多分背水の陣というか本当に何とかしなければならないところだったと思う。だから3億6,000万円の上乗せをした。実は前回は今回と同じと思う。今回はだめだったからまたさらにということになるが、それだって考え方が足りなければまただめになる可能性も高い。前回の砂川が20億円補正した上にまた20億円足りないだろうと言われていた中での3億6,000万円の根拠について、我々は調査し切れるものではなかったが、非常に小幅という印象を受け委員会の中でも話をさせていただいたが、どうしてもその辺の不安感が拭えない。コンサルタントと設計業者がかかわっている中で、いろいろ入札制度の関係で例えば業者の情報を直接入れたりといったことが難しい状況で、自分たちの考え

方の中でつくり上げていくものだったり、コンサルタントや設計業者との関係の中で積み上げられた金額と思うが、コンサルタントが介在している中でそういう情勢を加味した判断は当然そちらに委ねられるというか、期待されるべきと思う。そういった意味ではどうなっているのかと思わざるを得ないが、どのような対応になっているのか。また、今後コンサルタントとどうしていくのかについて伺う。

委員長
東部長

非常に大事な指摘と思うので答弁願う。

コンサルという形では委託していない。実施設計という形で設計業者と、その場合についてはJVの実施設計という業者でやっているところである。したがってどういうところに問題があったかについてはしっかりと検証しなければならないし、それをもとに二度とないような形でやっていかなくてはならない。指摘にあったようにもっと今の社会情勢の認識をしっかり持ってやらなくてはならないと思っているので、背水の陣という形で今度の再積算等について臨んでいきたいが、収支の部分がどうなのかという検証とセットで双方が折り合うかどうかあわせて進めていきたい。

本間

答弁が若干不十分と思う。コンサルタントという表現が違ったのかもしれないが、実施設計という中で実際どういうふうに行っているかの説明でも結構だが、なぜこんなことになってしまうのか理解できない。当然業者としてはそういう役目を担っているのではないのか。

東部長

原因としては究明しないと何とも言えない。業者も含めて我々のほうにいろいろと認識の問題点があったと思う。当初言っていた民間企業並みに云々という1つの目標値を設定して進んできたことで、そういう部分に縛られ過ぎた部分があった気がする。ただ、どこに問題があったのかについては、よく解明しないと今の時点では明確な部分がわからないのでお答えできない。

本間

なぜ一生懸命に言っているのかというと、やはり厳しく当たっていかなければならないのではないかとということである。市役所としてなるべく安い価格で落とすようにバランスをとって探っていくことはいいことと思うが、それができなかった。社会情勢との乖離があった中でそれを埋めるのは委託している設計業者と思う。その辺については厳しく相対していただきたい。業者と話をしながら情勢を考えていくことにはならないので注意していただきたい。時間が非常にない中であらゆる想定をして30日を迎えたと思う。確かに今の時点ではという話はあるが、これからそんなに時間もない中で委員会も何回か開かれると思うが、基本的な方針というものを急いでやっていただきたい。

委員長
山口

他に質疑はあるか。

① 入札辞退の連絡日時、連絡方法、連絡してきたJVの代表の会社を伺う。
② 細かい分析はこれからとのことだが、分析方法、積算方法のこれからの進め方について伺う。

③ 本間委員への答弁の中で、再入札で落ちないのは許されないとのことだったが、隣の砂川市がだめだったのを見ての入札なので再入札のようなものである。実際に失敗しているモデルがあるのに同じような轍を踏んだわけで甘いと言いたい。砂川が延びている間に滝川が完成して営業を始めていけば、それなりのメリットは必ずあったと思うが、そのチャンスもみすみす逃してしまったのは大きなデメリットになる。本来は設計者がこれくらいの金額でという見積もりを出し、発注者のほうが積算して調整するはずである。設計者が50億円なら50億円と言えば落ちるはずで、病院側が削って45億円にして落

ちなかったら上がるわけだが、そうではなく設計者のそのままの金額で入札して落ちないなら設計者は落ちると踏んで出しているのです、その業者を連れて来いとなってもおかしくない。実際に市立病院の金額の主導権は、設計者が持っていたのか、それとも病院側が持って下げたものなのかを伺う。

東 部 長

② 数量的な積算の部分で誤りがなかったかどうかについては今やっている。価格の時点的な問題の相違点があるので、その部分でどれくらいの影響があるのかないのかをやっていく必要がある。鉄骨関係など一部については5月に置きかえた関係があるが、それ以外の部分については基本的に3月時点での見積もりを前提にやっていることもあるのでどうしても時点的な差があり、そういう部分での見直しをやっていく必要があると思っている。

③ 少しでもイニシャルコストの安いものをつくりたいということがあったわけで、設計業者との話し合い中で何度もやりとりしてもっと安い調達方法がないのかなどいろんなことの協議をして積み上げてきているので、そういう部分に無理がなかったのかどうかもあわせて検証していかなくはないと思っている。そういう意味で金額の主導権がどちらかということになれば、最終的には病院側にあったと言わざるを得ない。考え方等について甘いと言われればまさにその通りと言わざるを得ない。実際のいろんな情勢についての認識が不足していたことについては甘んじて受けるしかない。期間が延びたデメリットはもちろんあると思うが、今後少しでも期間の短縮を図るという意味で、なるべく短い中でどのように再構築すべきか全力を傾注していきたい。

① それぞれ3社について、当日の8時半から9時の間にそれぞれの代表者が辞退届けを持参してきた。

山 口

分析方法についてだが、金額が合わなくて入札を辞退したわけなので、部長が言ったように数量が合わなかったというのは計算の間違いなのですからすぐわかると思う。ただ、価格が合わないというのはマーケットでもう一回価格を調査するという方法もあるが、実際に今回見積もってもらったところのどの部分が合わなかったのかを確認してもよいと思う。数量と単価のほかに積算の中に本来あるべき積算項目が抜けていた、要らないということで抜かしたものもあると思う。合わなかったということなので、積算表に載っている部分だけでなく、載っていない部分でも今の建築業界では省けないというか、そういうものまで金がかかるという認識のずれというものもあると思うがどうか。

東 部 長

当然、今のマーケットでの価格がどうなのかを前提に積算し直したいと考えている。本来あるべきものを抜かしたということについては基本的にないと思っている。私どもでは図面や仕様書のほかにそれぞれ積算している数量も公表しており、公表してからその間の質問は1件もなかった。砂川の場合は公告してから600件くらいの質問があったようだが、滝川の場合は質問がなかったというのは、数量的に内訳を公表することで理解いただけたと考えている。そういう部分では出した数量の中で疑問な点はその時点ではなかったが、最終的にはわからないので積算の基礎的な数量等々に誤りがいいのかどうかについても再度精査していきたい。いずれにしてもマーケット等の部分について我々の認識のほうに結果的に甘さがあったと言わざるを得ない。

山 口

説明会で質問はなかったということで、そうすると最初の単価の設定が間違っていたということになってしまう。マーケットの値段の操作について、国や道でも決まった方法でマーケットの調査をし、それを統計的に出して分析し、その価格をつくって公表するのに何カ月もかかり、それを公示に使っている。今

までと同じようなマーケット調査をして道単価を出してもそれは全然意味をなさないことはわかったのだから、同じ方法で分析してもまた2回目の失敗がないとも限らないので方法を変えてやっていただきたい。私も何とか病院を早急に建てようと頑張っているわけなので、マーケットの調査方法についての考えを伺う。

東 部 長

指摘のあったように物価が安定している時期だといろんな公表されている部分が的確に反映されていることになると思うが、こういう物価が急激に上がってきている時期についてはそれなりの方法も考えなくてはならないと思うので、協議をしながらそれらの部分について見誤らないように判断していきたい。

委 員 長
酒 井

他に質疑はあるか。

① 今回の入札辞退は極めて重いものと言わざるを得ない。砂川を見て行った滝川は、後追いということで考えれば防げた問題でなかったかと思う。市民に対しても謝罪しなければならない重い事態と思うが、今後のスケジュールはどのようなになっているのか。今後収支計画も含めて見直すとのことだが、1カ月、2カ月かかるのか、それ以上かかるのか。砂川市では最終的には6カ月延びるといった計画を出したようだが、滝川の場合はどのように考えているのか。恐らくなるべく早くという答弁になるかと思うが、例えば今月末までに収支計画について改めて考え直すとか、中身の詳細について検討するなど考えを出していきたい。

② あの補正予算は何だったのか。設計業者の責任も極めて重いと思う。先ほど病院のほうに主導権があるとのことだったが、例えばこうしたことが二度と起こらないように新たにコンサルなどを入れてやり直す考えについて伺う。

③ 砂川でも新たに金額を設定したが、滝川でも考え方によっては十数億円ということもあると思う。ここまで金額が大きくなると最初の収支計画から大きく外れるわけで、今まで議論された部分、例えばベッドの単価などについてもほかのところから比べると極めて安いと言われていたが、それについても単価が40万円になってしまうといった形が出てくると思っている。数字として上がるという部分では間違いはないと思うが、考え方について伺う。

④ 積算根拠だが、鉄については高騰している状況にあるが、それ以外についても建築資材全般について値上がりしている中で、そういったものを見定めた上での数字でなかったかと思う。積算単価について甘かったと申し上げていたが、こうした数字は砂川が失敗した時点でわかっていたとある方から伺った。例えば道単価から比べても極めて低いことで、10億円から20億円の幅があり、このまま行けば入札は不調に終わるといことが言われていた。山口委員の質疑で砂川では600件の質問があったが滝川ではないことで最初の単価設定が間違っていたのではないかということが言われていたが、その通りでなかったかと思う。今後の進路の方向についてどのように考えているのか。今までどおり民間並みと考えているのか、それとも別のもので考えているのか伺う。

東 部 長

① 非常に大変な問題と認識しており、全力を傾けて打開策を考えていきたいと取り組んでいるところである。内部的には何とか今月中にめどを立てたいと考えているので、再積算、収支計画、補正がどうなるのかといったことを含めて今月中に何とかしたい。今月中に3回程度の特別委員会を計画しているという中で、適宜それらの部分についての考え方、あるいは計画したものについて説明させていただきたい。目標的には最短で行きたいと考えているので、もし再計算等の中で今月中にやれるという判断になった場合は、8月上旬にでも臨

時会を開いていただき、入札執行をと考えている。前回は入札期間についても公告から入札参加者の資格審査、あるいは辞退者が出た場合の不服申し立てと大幅に余裕をとっていたので、これについても見直しをして考えていきたい。

② 新たにコンサルを入れる考えは持っていない。ここで新たな人が入ってきても内容を理解するのに相当かかる話なので、今までの内容が十分わかっている者と原因がどこにあったのか、自分たちの認識も含めてしっかりとしたものをも早急に努力して構築していきたい。当然収支計画についてもきちんと耐え得るものかどうかの検証が必要と思っているので、委員会の中でお示しをしていきたい。

③④ 基本的にはイニシャルコスト、ランニングコストを含めてトータルで、しかし、安い病院という考え方を捨てる考えは持っていない。いかに安くできるのかという考え方を一方では堅持していきたい。ただそれが実勢価格と乖離していたという反省点をしっかりと踏まえた上で考えていかなくてはならないと思っているので、基本的な考え方としては低コストという考え方をもちつつ、今の物価が上がっていく情勢の中で市場価格にきちんと見合ったものを踏まえて積算等について進めていきたい。

酒 井

① スケジュール的に最短で8月上旬に臨時会という考えは示されたが、全体として、例えば開院に対してのスケジュールの点では大きな差はないととらえてよいか伺う。

② 市場価格に合わせた形で安い病院という考えを捨てる考えはないとのことだが、例えば8月の段階で金額が出されてもすぐそれでいいとは思わないと思う。例えば建物自体の階層が変わったり、中身が変わることもあり得ると思うが、病院の設計自体について大幅な変更があるのか伺う。

東 部 長

① 今月中に何とか1つのめどを立て、そこで行けるとなれば8月上旬に臨時会を開いていただく。もし議会で予算が可決されれば公告ということになり、その場合に公告期間という必要期間があるが、不要な部分を除くとうまく行けば8月末に入札執行できると考えている。当初考えていた7月18日という部分からすると約1カ月半弱のおくれとなってくるが、単純にそれを後ろにスライドさせると22年10月くらいの完成予定が1カ月半くらいおくれることになる。期間については、あくまでも標準工期の期間を設けているので、最終的な完成時期というのは、業者が決まってから話し合いの中で最終的な期限はこうだが短縮になるかどうかといったことも決まっていくことになる。

② 大幅な変更をやってしまうと、根本的に必要なベッド数はどうなのか、建物自体の構造計算もすべて1からやり直すことになるので、それは現実的ではない。少なくとも必要なベッド数や建てかえの必要性等については、期間をかけて十分積み上げてきたと思っているので、そういう意味では大幅な変更は考えていない。ただ工事費を少しでも抑えるためには、機能を損なわない程度での仕様の変更等で安くできないかどうかということもやろうと思っているので、そういう部分での工事費を少しでも安くするという努力はしていきたいと考えている。

委 員 長

他に質疑はあるか。

田 村

今は異常事態である。民間発想だと簡単に延期する。というのも今は原油や骨材の高騰が世界的な情勢だが、原油にしても1.5倍の増産体制に入ってきており、鉄骨にしても各鋼材メーカーは世界中でフル生産し始めている。ここ六、七年前は木材より鉄骨のほうが安かったのでマンションなどもみんな鉄骨で建

てたが、今は中国需要がすごく伸びていることでこうした異常事態になっていることは確かである。病院は大事な施設だから建てなくてはならないのはわかるが、もう一回収支も含めて果たしてこれでいいのかを検討すべきで、何も慌てることはない。骨材は60%、紙も40%上がっており、増産体制に入ってきた場合に何年くらいで戻るかわからないが、今思い切り無理して赤字経営をするよりはもっといい方法がないのか知恵を出してほしい。建てる建てないを議論しているのではない。骨材はこのまま上がり続けなし、原油も下がってくる。もっと先を見据えた場合に、コンサルも建築会社も含めて、建築会社も今はできないが2年後だったらできるかもしれないし、今営業停止の大手企業などもあるのではなおさらこういう状況が続いている。病院は建てるべきだが、もう少し冷静にいい方法がないか考えるべきと思うがいかがか。

東 部 長 きちんと再積算をしてそれが収支的に合うのかどうかを見極めていく必要がある。早急に作業を進める中で判断していきたい。

委 員 長 他に質疑はあるか。
堀 新聞では20%ほど予算と合わないと言われていたが、どれくらい足りないのか具体的な金額が部長に提示されているならお聞きしたい。

東 部 長 疑惑を招くことがないように基本的には業者と接触していないので、業者からこれだけ足りなかったという情報は来ていない。

委 員 長 他に質疑はあるか。

三上委員外議員 今回の入札不調は、基本的には鋼材価格の高騰によるものと思う。今いろいろと計算をして順調に進め、8月末に入札できればとの話だが、8月末にできたとして6月30日だったので2カ月おくれる。この間の資材高騰額というのは単純にどのくらいの金額が違ってくると予想しているのか伺う。

東 部 長 残念だが私の能力ではお答えできない。物価の本などを見ていると鉄骨関係は異常に上がってきており、年が明けてから6月時点くらいで約50%上がったと言われている。現在もその傾向は変わっていないと言われているが、金額的にはお答えできない。

委 員 長 他に質疑はあるか。

窪之内委員外議員 ① 入札が不調に終わったことと前後して砂川の21億円ということで、その辺の時間的な問題から砂川が補正をかけてもう一回公告し直すことになったら滝川に応募していた参加者はその様子を見ようということになったのではないかと思います。その辺の経緯がわかっていれば伺う。また、砂川で辞退した業者が滝川のJVの中に入っていたのか伺う。

② 砂川が21億円ということになると滝川がどれだけになるか心配である。仮に10億円を超えたときに収支計画は全く変わったものになってくると思うが、こうした場合に議会だけで判断していいのか。時期的なこと、おくれるといったスケジュール的なことはあっても、市民に説明した収支計画と大幅に変わる場合にそこを通らないで議会だけで進めていっていいのか。例えば補正しなければならない金額が幾らを超えたときにもう一回市民に説明し直すなどの考えを持っているのか伺う。

③ 入札の条件は、多分砂川と違った条件を出していたと思うが、入札条件についても検討すると考えているのか伺う。

④ 新聞報道では砂川は有利な起債でかえって負担が少なくなるのではないかとされているが、滝川の場合に考えられる有利な起債というのは今の段階ではないと考えるよいか伺う。

東 部 長

- ① 砂川に参加して辞退したJVと滝川の3JVは構成員が全く違う。
- ② 積算を早急にし、できるかできないかを判断して特別委員会、または議会に提案していきたい。最終的には議会での予算議決権という部分での判断を仰ぐ形になると思うが、住民の方にどういう形で周知すべきか方法について検討していきたい。再積算を出すとか、収支見込、補正が必要とすればどういうことになるのかについては今月中に判断していきたい。
- ③ 入札条件も含めてもう一度検討する必要があると思っている。ただ前の条件を全く変えるという前提ではなく、前の条件を踏まえて本当にそれでいいのかを検討する必要があると思っている。最終的に前と同じになるのか、違った形になるのかについては、検討の中で方向性を出していきたい。
- ④ ことしから過疎債の部分についての運用方針が変わったという情報があり、病院の公営企業についても適用になる状況である。当方では残念ながら過疎債を発行できないので、そのような起債はないということである。

窪之内委員外議員

再積算の結果次第でその状況を議会、委員会に説明し、委員会の中の議論次第では一定の規模で住民説明会をする可能性も含んでいて受けとめてよいか。

東 部 長

できれば今月中に方向を出し、来月に議決をいただき、来月末には入札まで持っていきたいと思っている。時期的な問題が現実論としてあるので、どういう形で住民の方に説明をすべきかはその中で考えていかななくてはならない。ただ住民説明会を開いてその中で議論した上でさあ次にということになると、とても先ほど言った今月中に方向性、来月臨時会、来月末に入札執行ということは不可能なので、それらとの兼ね合いも含めてどうしたらよいかよく考えていきたい。

委 員 長

他に質疑はあるか。

山腰委員外議員

ここに至った経緯にはいろんな見方があると思うが、発注者としてはいい物を安く発注することが最大の義務で病院側はそれを実行した。それをアドバイスするのは設計会社かもしれないが、権限があるのは発注者である。免震にする、耐震にするというのもすべて発注者の責任で、結果的にそれが不調に終わったのでどうするかということでやっているわけである。基本的に我々は病院を建ててほしい、建てなければならないという立場でやっているわけだが、先ほど田村委員が言われたように、過大な、過剰な投資をしている企業が倒産するケースはたくさんある。これから積算し直して、実際にあと起債をどれだけふやさなくてはならないのか、手持ちをどうしたらいいのかシミュレーションしていくと思う。それが10億円になるのか、5億円になるのかわからないが、一番懸念しているのは滝川には金がないということである。病院から金を持ち越すわけにはいかないし、特例債もない。砂川は病院に金があり、過疎債ももらっていることで全く状況が違う。滝川は年間3億5,000万円、4億円足りないとやってやっているのだから、その辺をきちんと踏まえていかないといけないし、ただ足りないから上乗せして建設に視点を置くのは間違いと思う。念頭には方向性として延期のことも考えなくてはならないかもしれないし、きちんとわきまえないといけない。

委 員 長

他に質疑はあるか。（なし）（1）については報告済みとする。

2 その他

委 員 長

事務局からあるか。（なし）委員から何かあるか。（なし）

3 次回委員会の日程について

委 員 長

正副委員長で協議して7月14日10時、7月22日10時、7月25日13時30

分の3回を予定している。以上をもって第16回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 11:10